

読む人の心を願って  
幸せを

no.558

# 喜びの タネまき 新聞



写真・市谷 健 「暑いね、今日は」

## ゼロからのスタート

ある地域で約三十年前からダスキンに加盟している店に訪問した際、加盟店のオーナーから「新たに店を出す予定です」との話がありました。

ダスキンの仕事を通して、地域の信頼を積み重ね、コソコソとお客様とのご縁を増やされていることから、更にサービスの向上を目指すため店を分けるものと思っていました。話を聞くと「現状の店は従業員に全て任せ、新しい店は私一人でゼロからのスタートです」と言われました。

新たに店を出す加盟店のオーナーはこれまでも多くおり、一店目はオーナーが立ち上げるのが通常です。しかし、三十数年も経って同じ事業をオーナー自らがゼロから立ち上げる例は少なく、驚きました。

そのオーナー曰く「ダスキンの仕事をして地域のお客様に育てていただいたおかげで、今の店があります。新たな店では地域とお客様への感謝の思いを一層深めるため、私自身が創業の原点に立ち返り「ゼロ」から頑張ろうと思う」とのことでした。

私よりも人生経験が豊富で六十八歳でゼロからのスタート。「私ならできるだろうか」と自問すると同時に、チャレンジするには年齢は関係なく、生きていく限り常に希望を持って前向きに取り組めるよう心がけたいと感じました。

株式会社ダスキン社長

山村輝治



育ったところには思い出があつて  
色や季節や人と分かちがたく結びついているが  
味や香りで、いっそう鮮やかによみがえってくる…。



絵と文 中村みつを

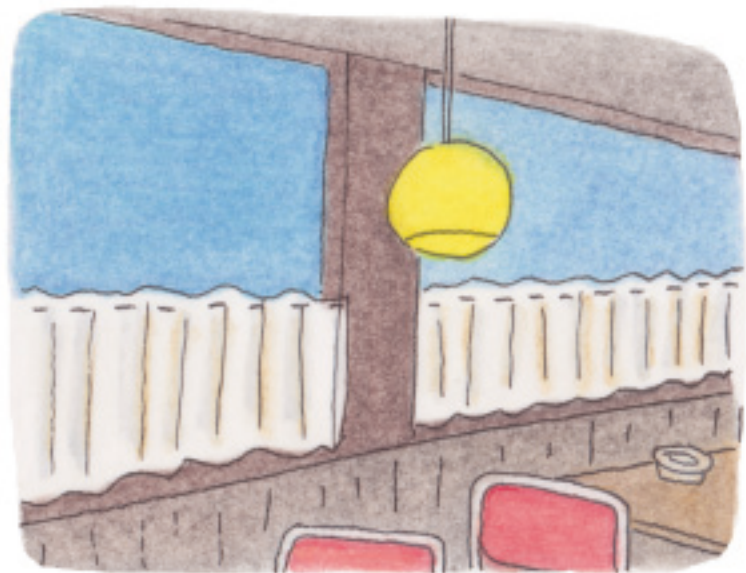
イラストレーター、画家。  
絵と文の作品は自然・旅・人がテーマで、  
心の和む温かさ。読売新聞夕刊のみなみら  
んぼうのエッセイ「一歩二歩山歩」に挿絵を  
描き、新聞連載の最多記録を更新中。日本  
山岳会会員。著書に「のんびり山に陽はの  
ぼる」(山と溪谷社)、「お江戸超低山さんぽ」  
(書肆侃侃房)、「森のくらし」(リヨン社)など。

## 「ぼくの生まれた町」

実家からの帰り道。「今夜は久  
しぶりに地元でごはん」と思った。  
当てるがあるわけではない。10年前  
に再開発されてすっかり変貌した  
駅前はずーパやビルが建ち、新  
しい店も増えた。さてどこに入ろ  
うかとあれこれ迷ったが、なぜか  
気持ちに向かなかつた。  
「いつそ、ごはんをあきらめるか」  
駅に向かうとき、ふいに  
赤いのが目に入った。そこは  
昔の面影が残った旧商店街の一角  
だった。ちよつと薄暗い丁字路の

角には、立派で古風な魚屋とタバ  
コ屋が仲良く並んで、今も看板娘  
がショーケースの前に座っている。  
向かいの履物屋に至っては何から  
何まで昔のまんま。きちんと並ん  
だサンダルや運動靴に店主がはた  
きをかけている。  
その隣は、駅から見えたあの赤  
いのれんの食堂だ。古色蒼然とし  
た佇まいに、子どもの頃の記憶が  
よみがえる。入り口にはロウで作  
った食品サンプルが陳列してあつ  
て、値段も昔のままと間違えるほ  
ど安い。

は経っているはずだ。メニューには  
子どもの頃のご馳走が並んでい  
た。洋食が珍しかった時代、父が  
「今日はカツライス食べよう」とい  
つて連れて行ってくれた。  
その父は1年前から介護が必要  
になり、実家に行くことが増えて  
いたのだ。昔から父と息子の会話  
は多くなかつたが、今日はおだや  
かに「みんなで仲良くな」とひと



「よし、今夜のごは  
んはここに決めた」  
店に入るのは、たぶ  
ん中学生以来だろ  
う。正直、懐かしさ  
だけで入るのになら  
ないはあつたが、そ  
れでもよかった。  
店内はどこを見  
ても昭和の薫りに  
あふれていた。大き  
な柱時計はどうや  
ら開店祝いのものら  
しい。もう50年以上

言つぶやいた。  
ぼくはメニューからオムライス  
を注文した。卵で包んでケチャッ  
プをかけたものだ。それは間違  
ない思い出の味だった。つぎは父  
と一緒にカツライスを頼めたら  
いな、そう思った。



## おしゃれで爽やか、初夏レシピ

### 「レアチーズケーキ」

クリームチーズにサワークリームとリキュールをプラスした、  
少し贅沢なレアチーズケーキです。  
ハチミツに1日漬けたレモンの薄切りをのせて、  
すっきり爽やかな味わいに。  
蒸し暑くなってくる季節にぴったりです。



お料理研究家 こいけりえ

## おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



### ◎作り方(3人分)

#### ●下準備は前日から

皮をよく洗ったレモンの薄切りは、ハチ  
ミツをかけて1日冷蔵庫でしつかりと漬  
け込む。  
●生地作り  
室温に戻しておいたクリームチーズ13  
0gをボウルに入れる。そこへ砂糖40gを  
2〜3回に分けて入れてしつかりと混ぜ、  
なめらかなクリーム状にする。  
粉ゼラチン5gは水30mlを入れてふやか  
しておく。

混ぜ合わせたクリームチーズに、レモン果  
汁大さじ2、リキュール大さじ1の順で加  
え、再び混ぜ合わせ、次にサワークリーム  
100gを入れて、しつかりと混ぜる。  
溶かした粉ゼラチンの容器に、作ったク  
リームチーズ大さじ2を入れて、湯煎に  
かけながら混ぜて溶かす。すぐにボウル  
に戻して、手早く混ぜて生地は完成。

#### ●冷やし固める

出来上がった生地は、ガラスの容器に入  
れて、トントンの机の上でたたいて空気を  
抜く。ラップをかけて冷蔵庫で約2時間  
冷やし固める。



おしゃれがり



●生クリーム作り  
生クリーム100mlに砂糖10gを入れて、  
8分立てにホイップする。

●盛り付け  
冷やしたチーズケーキに、ハチミツレモ  
ンを1枚のせて、周りを絞ったホイップ  
クリームで囲み、ミントの葉をアクセント  
にのせる。おしゃれなレアチーズケーキの  
完成です。



見てうれし、見せてうれし、この写真。  
わたしの出番の1枚を送ってください。

可愛いまっか!  
神奈川県茅ヶ崎市  
中丸順子



じいじ、ばあばの畑でとれたよ!  
兵庫県播磨町 大西フミ子



70年前の先生と。  
神戸市 団久代

家族や友だちにしか撮れないステキな笑  
顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの  
1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら  
送ってください。お待ちしております!  
(詳細は7ページ)





市場の古本屋「ウララ」  
 沖縄県那覇市 宇田智子さん(35歳)

## 小さいけれど 根っこのある生活

那覇市の第一牧志公設市場。  
 地元の人や観光客で賑やかな通りには  
 土産物屋、餅や乾物、傘から服まで  
 間口一間ほどの店が並ぶ。  
 そこにすんなり溶け込んだ  
 古本屋の店主をお訪ねしました。



「こんにちは」読んでいた本を置いてさっと立ち上がった宇田さんは目を瞬いた。ちょっと心細そうに。周りの店のおばちゃんならずとも、つい手助けしたくなる感じだ。

と最近自分が読んだ本も流れにまかせるような気持ちで売る。人に読んでもらうための古本屋だから。

4年前「次にやる人を探しています」と閉店した本屋を引き受けたのが

市場で古本屋は1店しかない。文庫や新書、雑誌も並ぶ書店が日用品と同じ市場の文化に、少し目立ちながらも溶け込んでいる面白さ。開店2年目、地元の出版社から『那覇の市場で古本屋』を出版。宇田さんは小さな根っこを生やしているのだ。



「正面が鯉節屋さん。隣と繋がって見えるけど別々の店なんです」

始まり。  
 東京の大書店、那覇支店と移り、その後が古本屋。即断即決ですか？と聞くと、「なんとなく流れで。困って不安だった：」けれど、改装の手伝いは友達の友達が、看板は知り合ったばかりの人が描いてくれ、「大丈夫だよ」と励ましてくれたという。



以前は疲れて逃げたいほど忙しかった。それが、気がつくとお隣の洋服屋さんや漬物屋さんと一緒に並んでいる。座っているとお菓子やお茶が回ってきたり、ちょっと店を空ける時も見えてくれる。人との距離が近く、親身で温かくて、沖縄の人は有り難かった。

本のすぐ横に漬物のビン。市場の緊密感がうれしくなります。

小さな店がどこまでも続くんじゃないかと楽しくなる通りです。

何千何万冊の本から離れ、一冊の本の売り買いを自分でするようになって、お金の価値やこの一冊の存在感が強くなった。沖縄に来て、沖縄で出版される本の多さを知った。店の棚には沖縄の歴史や音楽、料理や紅型の本が並ぶ。「沖縄県産本は豊かで、しっかりした根っこがあるんです」

本のすぐ横に漬物のビン。市場の緊密感がうれしくなります。

小さな店がどこまでも続くんじゃないかと楽しくなる通りです。

小さい頃から本は大好き。人に薦めたい本の棚は店主の個性が出る。楽しいけれど、「手元に置きたい本にこだわることもないな」

本のすぐ横に漬物のビン。市場の緊密感がうれしくなります。

小さな店がどこまでも続くんじゃないかと楽しくなる通りです。







スタートの言葉

秋田県横手市 堀田和久

社会人の姿が、若葉のなかに映える。この季節になると50年あまり前の事を思い出す。私の父は戦死しており、母子家庭で育った。当時の就職では、両親のいる家庭が有利。大企業でも採用の条件としている会社もあった。一次試験にパスしても面接で不合格になる。理由は片親で育ったからだと言う。戦死なのに何故かなと思ったりもした。

私は工業高校を卒業後、国鉄の工務局に就職した。筆記、適性、身体検査を終え、面接の最後に試験官が「お父さんが戦死ということ、長い間大変苦労されたね」笑顔で話してくれた。新たな人生のスタートを勇気づけてくれた言葉として、今でも鮮やかに残っている。

——背中をボンと…。素敵な試験官ですね。



母の日の似顔絵

岩手県盛岡市 高橋龍児

次男が保育園児のころ、母の日にデパートに展示する似顔絵を持ってきたのですが、これがビックリ！看護師の仕事を終えて、缶ビールを片手に、赤い口紅にタバコをくわえた絵だったのです。慌てた妻は、お小遣いをあげたり、お菓子をあげて、なだめたり脅したりして、書き直させてしまいました。私はよく似ているなあ、子どもは親の日常生活をよく観察しているなあと感じたのですが…。

我が強くて友達思いの次男は、バス旅行の車中で隣の友達が「ウチのお母さんいないんだぞ。すごいだろう！」と言うと、同情心が競争心か、「ウチのお母さんなんかタバコ吸うんだぞ。すごいだろう！」と言って、保育士さんたちを困らせたそうです。

そんな息子も今は大人。私たち夫婦も60過ぎになり、孫二人。百円ショップで孫の手を買い、「本当の孫の手は大阪まで行かないとないの」と言って店員さんに笑われました。

——子どもってうーん、やっぱりカワイイ。



カカシ

埼玉県杉戸町 高木克代

「：キュウリを食べられた」ある朝、我が家の貸し菜園で野菜作りをする男性が、浮かぬ顔で私に告げた。犯人はカラス。トマトやスイカは以前もやられたが、キュウリは初めて。早速、犯行現場へ駆けつけると、5、6本が地面で無残な姿に…。憎きカラスだ。何とかならないかと、ふとひらめいたのがカカシだった。

美容師をする友人の娘さんからマネキンの頭を貰った。頭に麦わら帽子、ブラウスとズボン、その上からビニールのカッパを着せた。もう一体は真っ赤な着物と黒い帯、頭には花笠を装着。カラスが笠に乗ると鈴がなる仕掛けだ。

翌日、「おばちゃん、ギョッとしたよ！」と彼。風が吹く度にビニールの袖が揺れ、作者の私でさえ気が悪い。我ながら上出来。一人悦に入った。でも、利口なカラス相手には一時しのぎにしかない。カラスと人間の戦いはいつも平行線だ。頑張れカカシ！

——終わりのなき戦い。



夏の風物詩

静岡県藤枝市 国松恵子

「久々にうちの庭でホタルを見たよ」次男の言葉で、夕飯を中断して、庭に出てみましたが、時すでに遅し。どこかに飛んで行ってしまった後でした。

この地に移ったばかりの、20数年前、毎年ホタルが夏を知らせに庭にやってきました。裏の川沿いの道は、見物をする人たちのそぞろ歩きが夏の風物詩でしたが、主役のホタルは乱獲や生活環境の変化で数が減っていました。

けれども、ここ数年は、保存会の皆さんのおかげで、少しずつですが、また増え始めたと聞きます。来年の夏も、無事な姿を見せてくれることを願っています。

——ホ、ホ、ホータルこい。



誕生会

福島県須賀川市 佐藤よし

近くの保育所から私たちの老人会に「誕生会」の招待状が届きました。私を保育園でエスコートしてくれたのは、年長組のしょうた君。手を繋いで階段を上りながら、たくさんの質問がとんできました。「おばちゃんは何ていうの？おうちはどこ？とはいくつ？…」「さあ、当てる」と、大きな声で「82さい！」「当たり前！」「86歳の私を82歳、おばあちゃんをおばちゃんと呼んでくれたしょうた君を、すっかり気に入ってしまいました。

当月生まれの児童3人と、私たちからも2人がお祝いを頂き、ケーキの火を消しました。私は、仕事で娘の参観日に行かれなかった昔を思い出し、胸が熱くなりました。

——みんなスクスク育つてね。



孫娘

福岡県八女市 堤馨子

「学校で一番好きなのは？」小4の孫娘に聞く。「ハイ。お昼休みと業間休みだよ。チョーッ楽しい」間髪入れずに、「元気に両手片足をあげ、振りつけてクルツとターン。」「土曜日も授業が始まるね」と言う。「エーッ!!じゃあ、月曜日がお休みになるの?」とそれは嬉しそう。

先日小川でホタルを見ながら、「光って、オスがメスにアピールしているんだよ」と説明すると、「へえー。じゃあ、オス達はみんな独身なんだ」と言うので、思わず笑ってしまいました。

担任の先生は「いつもニコニコしてて、ホッとします」と言ってくさる。勉強にはあまり興味がないようですが、その明るさで、友達と楽しい学校生活を送ってほしいです。

——まぶしいほど明るく元気！

晴れの日。初孫です。



熊本県宇城市 石山信子

お金の扱い方

人間の価値をきめるのに、お金をどう扱うか？で、その人の人物がわかる。一番愚かな人は、ムダ使いをして、借金すら返せぬ人。中の人は、金を使わないで貯める人、上の人、尊敬すべき人物は、ムダ金を使わず、貯めた金を、喜びのタネになるような、有効な使い方をする人間である。

鈴木清一

●みなさまからお寄せいただいたお話をもとに新聞をつくってまいります。どうぞ、あなたが体験した嬉しかったこと、誰かに聞いてもらいたいことなど、身近な話題をお寄せください。

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。紙面やホームページでご紹介させていただいた原稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33 ㈱ダスキン広報部

ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室 e-mail:koho4@mail.duskin.co.jp

no.419からのバックナンバーが下記のアドレスからご覧になれます http://www.duskin.co.jp/tanemaki/

4-5ページ 市場の古本屋さんの連絡先

〒900-0013 沖縄県那覇市牧志3-3-1 市場の古本屋ウララ 宇田智子 MAIL: urarabooks@gmail.com OPEN: 12:00~19:00 日・火曜日定休

あいのわ 愛の輪からのコラム

一緒に考えましょう、「障がい」のこと。 4 手話ができなくても、あきらめないで。

耳の不自由な人にとって手話は重要なコミュニケーション手段。もちろん手話ができるに越したことはありませんが、たとえ手話を知らなくてもコミュニケーションをとることは可能です。相手の口の形や表情を手がかりに話の内容を理解したり、身ぶり手ぶりや筆談で意思の疎通を図ることもできます。大切なのは「わかるう」「伝えよう」という姿勢なのです。

このコーナーについてはダスキン愛の輪基金まで。 ☎ 06-6821-5270 HP http://www.aiinowa.jp/ 愛の輪は日本とアジアの地域社会のリーダーを目指す隊がいる。五省に、海外での研修活動を行っています。

ダスキンの会員制サイト

ディーデュエット

**DDuet**  
DUSKIN MEMBERS SITE

会員登録  
受付中!

わたしにいいコト、暮らしにいいモノ。

DDuetで  
お買い物!  
商品・サービス情報

DDuetで  
見てみよう!  
キャンペーン・地域情報

近所の  
のお店も!/?  
COUPON  
DDuetで  
もっとおトク!  
会員特典

ご登録は3ステップで簡単♪

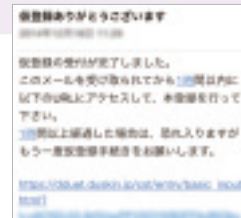
STEP 1

新規会員登録からアクセスし、  
メールアドレスを仮登録  
(本登録用のURLをお送りします)



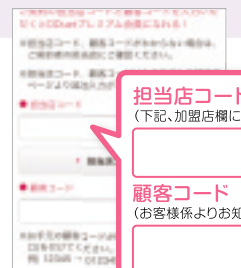
STEP 2

返信メールが届いたら、  
1時間以内に記載された  
URLにアクセスし、  
本登録をお願いします



STEP 3

本登録画面で基本情報を設定  
ダスキンの定期的なご利用があれば  
2つのコードを入力するだけで  
「プレミアム会員」に!



プレミアム会員登録完了!

アクセスはコチラから



●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行・編集：広報部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様の個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループと加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキコールセンター

**0120-100100** www.duskin.co.jp